

令和7年度 学校関係者評価（まとめ）

学校番号	1	学校名	沼津視覚特別支援学校	記載者	中村 信之
------	---	-----	------------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	幼児児童生徒を主語にした「問いをもち、分かったと実感できる授業づくり」	・研修を生かし、個に応じた授業づくりができた教員100% ・授業が分かりやすく、楽しいと思うと答えた幼児児童生徒100%	A	A	・教員と幼児児童生徒の両者が100%で、力を入れている証である。「子どもを主語に」と、国が言う「こどもまんなか」社会の実践である。
	視覚特別支援学校としての学習環境づくり（教員の専門性向上、教材教具、ICT活用、歩行訓練士、視能訓練士等の活用）	・自立活動研修、視能訓練士、歩行訓練士との連携で得た知識や技能を授業、生活指導で活かすことができた教員100%	A	A	・学習環境づくりの取り組みは学校外にPRできるものであり、子どもたちのためになる。 ・今後、情報はA Iが大きな役割を担う。学校ではA Iで提供困難な具体的な体験が可能。さまざまな体験ができる学習環境を作ってほしい。
	自立へのビジョンをイメージしたキャリア教育	・幼児児童生徒の発達段階や年齢に応じた、キャリア教育の視点で授業を実践することができた教員100%	B	B	・学校の指導は十分にできていると思うので、今の取り組みがキャリア教育につながることを保護者へ伝え、理解と共有することが重要である。何のための学習かを丁寧に伝える必要がある。 ・キャリア教育の取り組みは大変ではあるが、将来の自分につながる大事な教育である。
イ	自分事と捉え、自ら考え、行動する防災教育	・学びや経験を活かして命を守る行動ができたと答えた幼児児童生徒80%以上	B	B	・防災に完璧はない。様々な想定をした訓練を繰り返し行う。

様式第4号

	自分も仲間も大切に する心と体の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との交流や運動の楽しさを味わうことができた幼児児童生徒 100% ・人権教育年間指導計画を活用し、人権感覚を意識した指導ができたと回答した教員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・将来をふまえ、幼児児童生徒に運動を習慣づけたい。家庭との連携を図り、日常生活で取り組むことも大切。 ・とても大切なことである。力を入れてほしい。
	幼保、学校、行政等との連携による教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携後、支援が深まったと回答した相談者 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津視覚特別支援学校の優れた点である。教育効果を上げる努力がされている。
ウ	教職員一人一人が理解推進の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への理解が深まった割合が 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的役割が果たせている。担当者が代わっても継続できる体制の維持継続が重要。 ・さまざまな関係機関と協働・発信し、地域への啓発に繋がることを希望する。 ・学校の紹介をインスタグラムなどの SNS や AI を活用することは有効。「攻めの姿勢」で、希望を見出せるような発信をしていく必要がある。 ・市町の「子ども若者計画」を活用できると良い。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新内容・時期が適正と考える保護者 80% 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> (高等部) ・関係者の集まる場や関連機関等での高等部学部説明年 4 回以上 	A	A	
	豊かな心と経験を作る交流教育	<ul style="list-style-type: none"> (小学部) ・活動を通して関わりを楽しめたと感じる児童 80% (中学部) ・活動を通して、様々な人から学びや経験を得たと感じる生徒 80% (高等部) ・施術をとおして、様々な人から学びや経験を得たという生徒 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学部に応じて成果目標を設定しているので分かりやすい。
エ	働きやすい学校にするためにチームで考え行動する職員集団	<ul style="list-style-type: none"> ・相談、協力しやすい職場だと思えた教員 100% ・教員、事務職員の専門性を生かした役割分担を検討し、令和 7 年度中に実施体制を構築 ・校内美化が行き届いている学校と感じる保護者、教員 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした職員集団としての評価 100%が、子どもたちの学びに良い影響を与えている。